

「受験」 高2 Wさん (高校推薦入試)

受験当日の事は、今でも鮮明に覚えています。私が一番不安でたまらなかったのは3教科目の数学でした。数学の試験直前の休憩時間になった途端、感じたことのない恐怖と不安が押し寄せ、手足が震えていました。机をただぼうっと見つめ固まっていた。そして試験が始まりました。試験問題をめくってもめくっても、何も分かりませんでした。周囲の人が必死に鉛筆を動かす中で、私がページをめくる音だけが教室に響いていました。私の頭の中は真っ白でした。「これって、私の受験の本番だったっけ...。」そんな事を考えながら、なんとか解法を捻り出し解答用紙の3分の1くらいを埋めたところで、試験が終わりました。

現実を受け入れられず無心で椅子に座っていましたが、それがその時にできる精一杯のことだったように思います。できるなら今すぐ逃げ出したかった。しかし、たった数分前の現実が私を押し潰して、手足を動かすことすらできませんでした。面接までのお昼休みの時間はゆっくりと、でも着実に、過ぎていきました。そこで私はとっさに、あと10分だけ落ち込もう、それから先は数学の試験なんて全部忘れて面接のための準備をしよう、と決めました。この判断は今考えても自分を褒めてあげたくなります。誰よりも練習してきた自信があった面接なら絶対に大丈夫だと思い込み、ひたすら口を動かし笑顔を作ろうとしました。私は本番では驚くほど緊張せず、「面接」というよりはただ面接官の先生方との「会話」を楽しむことができたように思います。面接室の扉を閉めるとき、私は心の底から笑顔を浮かべていました。そして合格発表の時、私の受験番号は確かにありました。信じられないほど嬉しかったことを、私は忘れることができません。

そうして明高生となり、私は本校で2020年度高校生徒会副会長を務め、先日任期を終えました。この受験生応援プロジェクトは、ずっと受験生を支える活動がしたかった私の思いが形になったものです。受験は何が起こるか予想できません。それは、今まで積み重ねてきた努力が自分を支えてくれる反面、自分にのしかかる緊張や重圧にもなり得るからです。しかし、夜遅くまで課題に取り組んだり、模試の結果に苦しんだり、苦手科目にも逃げずに立ち向かったり、受験の日を迎えるために努力を重ねてきたのは間違いなく自分自身で、合格を勝ち取れるのも自分だけです。合格を掴み取った後も、学校である以上勉強は続きます。私が受験で体験したあの感覚はいまだに頭から離れませんし、試験勉強をしていても不安で逃げ出したくなることすらあります。しかし、先生方や友達がいつも助けてくれます。分からない問題を一緒に考え、話を聞いてくれる仲間がいます。そんな心優しく愉快的仲間達との学校生活は入学前に想像していたよりも何倍も楽しく充実していて、私は「明治が大好きだ！」と心から思っています。

今年の春、みなさんとこの学校で出会えることを楽しみに待っています。